

第1学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年9月22日(水) 第2時

場 所 1年1組教室

指導者 大坂 亜紅

1 単元構想

単元名	のりもののことをしらべよう「いろいろなふね」(東京書籍「あたらしいこくご一下」)			
単元の目標	(1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 (2) 船の「やく目」「つくり」「できること」が表す重要な言葉を考えて選び出すことができる。 (3) 文章中の重要な語や文を選び出し, 読んで分かったことカードにまとめて伝え合おうとしている。			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	①共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」において, 船の「やく目」「つくり」「できること」が表す重要な言葉を選び出している。(ウ) ②「読むこと」において, 事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えている。(ア)	①これまでの学習や経験で気づいたことや出来るようになったことを生かして, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出し, 船を紹介するカードにまとめて伝え合おうとしている。	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)				
「やく目」, 「つくり」, 「できること」に沿って, 文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。				
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方		
重要な言葉に気をつけて「お気に入りの乗り物図鑑」を作ろう。		重要な言葉や文を見つけることで, 言葉への自覚を高めること。		
習得させる用語	①文 ②文章	習得させる方法	①重要な言葉の見つけ方 ②構成の捉え方	
指導計画と評価計画(12時間取扱い 本時5/12)				
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	用語・方法の習得	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○教師が作成した図鑑の例を見て, 乗り物図鑑を作るという課題意識をもつ。 ○教材文を読み, 話の内容の大体をつかむ。	用語①・② 方法① 方法②	★【態①】(ノート・発言) ○乗り物を調べたり, 文章を読んだりする活動に興味をもって取り組もうとしている。 ★【思②】(ノート, 教科書) ○どこに何の船のことが書かれているか, 内容の大体を読み取っている。
二	5	○「きゃくせん」について読み取ったことをカードにまとめる。 ○「フェリーボート」について読み取ったことをカードにまとめる。 ○「ぎょせん」について読み取ったことをカードにまとめる。(本時) ○「しょうぼうてい」について読み取ったことをカードにまとめる。 ○説明文の仕組みを知る。		★【思②】(教科書, カード) ○「きゃくせん」の文章が「やく目」, 「つくり」, 「できること」の順に書かれていることを理解している。 ★【思①】(カード) ○「フェリーボート」の「やく目」や「つくり」, 「できること」を表す重要な言葉を見つけながら読み取り, カードにまとめている。 ★【思①】(カード) ○「ぎょせん」の「やく目」や「つくり」, 「できること」を表す重要な言葉を見つけながら読み取り, カードにまとめている。 ★【思①】(カード) ○「しょうぼうてい」の「やく目」や「つくり」, 「できること」を表す重要な言葉を見つけながら読み取り, カードにまとめている。 ★【思②】(シート) ○文章全体の構成を捉えている。
三	5	○本を読んで好きな乗り物について調べ, カードにまとめる。 ○作ったカードを紹介する。 ○本単元で身につけた力を振り返る。	活用	★【態①】(行動観察) ○乗り物に興味を持って本を読み, 「乗り物図鑑」を作ろうとしている。 ★【思①】(ノート・発言) ○重要な言葉を見つけながら, 乗り物について書かれた本を読み, 乗り物の特徴が分かるように学習シートにまとめている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
[知識及び技能] (2) ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1)ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。				
教材・題材の価値				
本教材は, 特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ, 役目や構造, 装備などについて説明した文章である。四種類の船が同じ文章構成, 同じ文型で説明されており, 叙述に即して内容を正確に捉えることに適している。また, 乗り物は児童にとって身近なものであることから興味や関心を持って学習に取り組むことができる教材である。				
本単元における系統				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(%)				
調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)		
文章をすらすらと読むことができる。				
内容の大体を捉えることができる。				
文章中の重要な語や文を選び出すことができる。				
■本単元の学習に関する意識の状況(%) ※9月実施の意識調査より				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
①国語の学習が好き。				
②説明的なお話を読むことが好き。				
④図鑑を読むことが好き。				
⑤文章を書くことが好き。				
⑥自分の考えを発表することができる。				
⑦友達の考えを聞いて, なるほどと思ったり, 自分の考えが変わったりすることがある。				

■考察

(資質・能力に関して)

(学びに関して)

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

<視点① 指導事項と用語・方法の明確化>

○本単元の指導事項は、「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」である。4つの船について「やく目」、「つくり」、「できること」という同じ観点で説明されていることに気付かせ、それぞれには何が書かれているのか詳しく読み取ることで、筆者が伝えたい船の「やく目」、「つくり」、「できること」を表す重要な言葉を読み取ることができるようになる。

○本単元で習得させるべき用語は、「文」と「文章」である。「文」と「文章」の意味を明らかにし、繰り返し用いていくことで、用語の習得を目指す。

○本単元で習得させるべき方法は、「重要な言葉の見つけ方」と「構成の捉え方」である。「重要な言葉の見つけ方」では、「やく目」、「つくり」、「できること」を表す重要な言葉を見つける学習を「きゃくせん」から繰り返し行っていくことで、児童に重要な言葉を見つける経験を積み重ね、方法を習得できるようにする。「構成の捉え方」では、全文を示し、最初と最後の形式段落は船の説明ではないことに気付かせることで、説明文の「話題提示（はじめ）」、「4つの例示（中）」、「まとめ（おわり）」という構成を理解させ、習得を目指す。

<視点② 学びがつながる「課題設定」>

○教材に興味をもたせるために、単元の導入で、知っている乗り物について伝え合う時間を設定し、「お気に入りの乗り物図鑑をつくろう」という単元の学習課題を設定することで、指導事項を児童とともに共有し、見通しをもって主体的に取り組むことができるようにする。

○単元のゴールに向かう問いかけを行い、課題意識を高め、めあてを共有していく。

<視点③ 学びを深める「課題解決」>

○語句の意味を明確にしたり、どのような順序で説明されているのかを考えたりしながら読ませることで、内容を正確に理解させる。

○重要な言葉を見つける際に、「つくり」では「きかい」や「あみ」という言葉だけではいけないのか等、児童の考えに揺さぶりをかけるような発問を行うことで、筆者の伝えたい重要な言葉は何かを全員で深めていけるようにする。

○適宜、ペアでの話し合い活動を入れることで、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。

<視点⑤ 目的のある ICT 活用>

○具体的な船の様子の写真を提示することで、船のつくりを視覚的に理解できるようにする。

○重要な言葉は何かを練り上げてく際には、児童が書いた乗り物カードを書画カメラで写し出しながら発表させることで、視覚的にも友達の考えが分かるようにする。

<人権が尊重される授業づくりの視点>

○承認・賞賛・励ましの言葉をかけることで、一人一人の考えを認め、児童が自己存在感をもてるようにする。

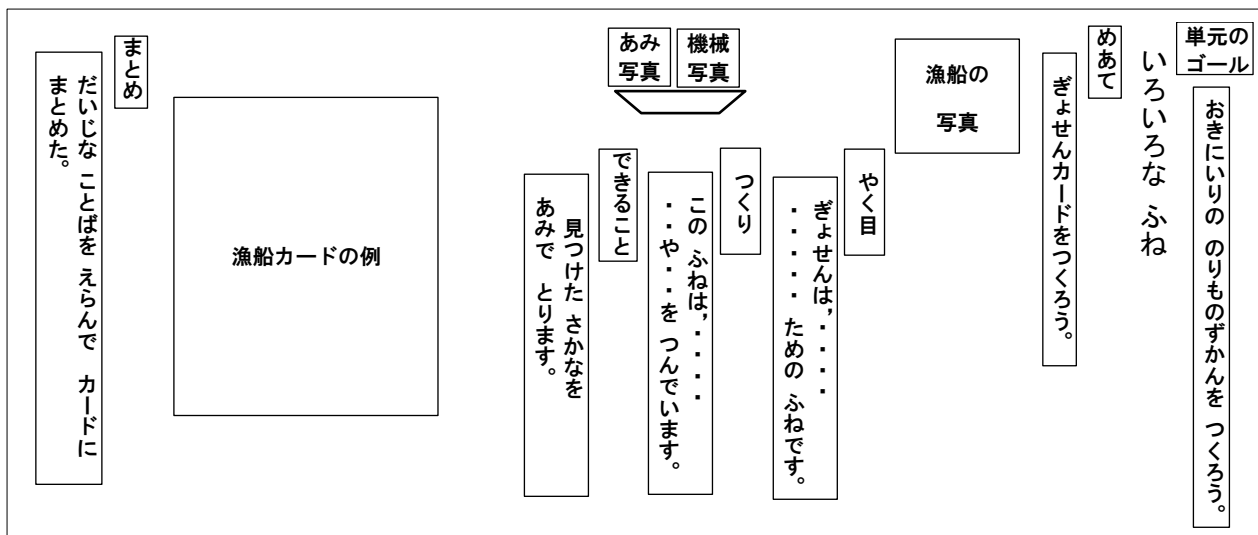
4 本時の学習 (5/12)

(1) 目標 漁船の「やく目」や「つくり」、「できること」を表す重要な言葉を見つけながら読み取り、カードに書くことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
みとおす	5	1 新出漢字を学習する。	○漢字ドリルを用いて, 新出漢字の読みと筆順を指導し, 用例について確かめる。
	5	2 前時の学習内容からめあてを設定する。 ①前時の学習を振り返り, 本時のめあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【めあて】ぎょせんカードをつくろう。</div>	○前時までの振り返りをし, 「ぎょせん」の写真を見せることで, 本時の課題意識を高め, めあてを設定させる。
もとめる	8	3 「ぎょせん」の「やく目」, 「つくり」, 「できること」を読み取る。 ①「ぎょせん」の文章を音読する。 ②「やく目」, 「つくり」, 「できること」の文を見つける。 ◇「やく目」は最初に書いてあるぞ。 ◇次は, 「つくり」の文かな。 ◇場所のことについて書かれていないな。	○3つの文(「やく目」, 「つくり」, 「できること」)でできていることを確かめ, 音読させる。 ○3つの観点が分かるように, 「やく目」は赤, 「つくり」は青, 「できること」は黄色に分けて色鉛筆で線を引かせる。 ○どこに線を引けば良いか分からない児童には, 前回までの引き方を確認するよう声をかける。
ふかめる	20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ぎょせんカードに書く「やく目」「つくり」「できること」は何ですか。</div> ③漁船カードを書く。 ◇「やく目」は「さかなをとる」かな。 ◇「つくり」は「さかなのむれを見つけるきかいや, あみをつんでいる」だな。 ◇「できること」は「見つけたさかなをあみでとる」だと思う。 ④「ぎょせん」の「やく目」, 「つくり」, 「できること」を話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">【期待される学びの姿】 重要な言葉を読み取り, カードに書いている。</div>	○「きかい」や「あみ」を具体的にイメージできるようにするために, 電子黒板で漁船の様子を提示する。 ○「ぎょせん」の「やく目」, 「つくり」, 「できること」は何か文章を詳しく読み, カードに書くようにする。 ○前時までの学習を活かして, カードにまとめていくようにする。 ○カードを書いたら, ペアでの対話を行い自分の考えを整理させる。 ○全体共有の場面では, 書画カメラで児童の書いたカードを提示して, 書いたことが視覚的にも分かるようにする。 ○友達のを聞いて, 自分の考えが変わった場合は, カードは書き直して良いことを伝え, 考えを共有する。 ○「つくり」は「きかい」や「あみ」だけではいけないのか等, 児童の考えを揺さぶることで, 重要な言葉を明確できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【具体の評価規準】思① ○「ぎょせん」の「やく目」「つくり」「できること」を表す重要な言葉を見つけながら読み取り, カードにまとめている。 (方法: カード・発言)</div> 【到達していない児童への手立て】 ○本文と一緒に読むことで重要な言葉を一緒に考えていく。
まとめる	7	4 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【まとめ】大事な言葉を選んで, カードにまとめた。</div> 5 単元のゴールに対する, 本時の振り返りをする。 ◇「ぎょせん」もカードにまとめることができた。 ◇つぎの船もカードに早くまとめたいです	○児童の発言を拾いながら本時のまとめをする。 ○説明の文を読み取る際の視点を共有し, 次回以降の学習でも活用していくことを確認する。 ○単元のゴールに対して本時でできたことを振り返らせ学習へ対する意欲をさらに高めさせる。

【板書計画】

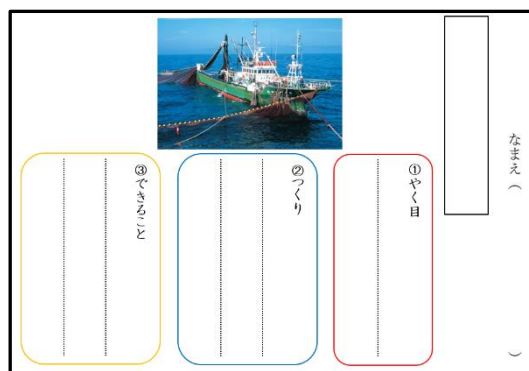
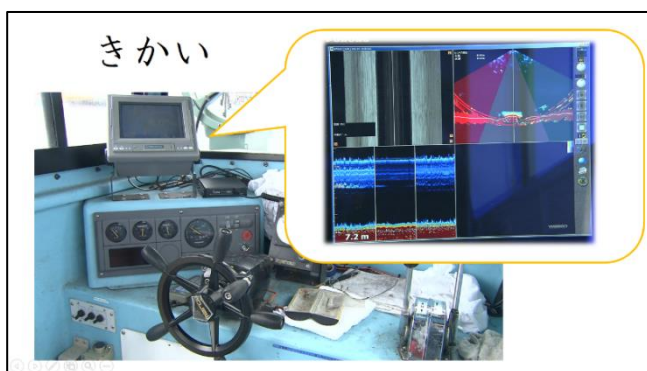


【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

「ぎよせん」の様子を提示する。

児童が書いた漁船カードを提示する。



※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元終了後は，見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

説明文を読むときに，本単元で働かせた見方・考え方（文章の中の重要な語や文を選び出すこと）を生かして，説明の文章に対する読みを深めていく。